



サカタニ友の会ニュース

発行者 株式会社 サカタニ  
 集英社 サカタニ  
 ファミリーマート  
 サカタニ 京阪七条店  
 〒605-0993 京・東山区七条こころ坂  
 ・075-561-7974  
 URL www.sosake.jp/  
 E-mail info@sosake.jp  
 毎月発行の  
 会員新聞です  
 編集 酒谷義郎  
 yosirou@sosake.jp

### トリスを飲んでハイイへ行こう！

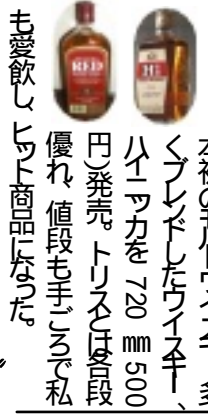
アンクルトリス・柳原良平  
 表題のモッチフリーズの特売を2月2日から「サントリー」が始める。聞く。NHKの朝ドラ「マッサン」のモデルになった竹鶴政孝さんの影響で「マッサン」が凄く売れ出し、国産ワインの王者の「サントリー」さんが動いた。



「トリス」は1959年(昭和34)敗戦直後の混乱期、米不足で日本酒の醸造も制限されていた頃、薩摩芋を主原料に連続蒸留器でアルコールを精製、それに原酒(アルコール)を5%をいれ商品化。1960年(昭和35)頃、「トリス」のモッチフリーズを発売開始。「トリス」の名称は「社長の鳥井氏の鳥」「トリス」と社名の「寿屋」の「寿」スを使いたと聞いている。

創業者の鳥井信治郎は公京が好き、サントリーの宣伝部には関高健山口、柳原良平も所属、極めて質の高い宣伝を展開した。1961年(昭和36)には「トリス」を飲んで、ハイイへ行こう、とCMが放送された。これはトリス購入すると抽せん券が同封されており、当せん者(所定のあて先に応募すると)ハイ旅行の資金(積立預金証書)が贈呈されるというものでした(当時はまだ一般市民の海外渡航に

は制約があったため、その頃庶民的なハイイのトリスワインを「トリス」で割ったハイイ本が主力「トリス」が続々できてサラリーマンや大学生が気軽に訪れ、グラスを傾けながら民主主義を語り、文学、芸術を語り、人生恋愛を語る舞台となり、新しいライフスタイルの場が形成され、ワインブーム市場は急増した。当時、日本産洋酒市場は「サントリー」が圧倒的に多かった。業界では宣伝の「サントリー」品質のツカの評価だったが、市場では苦戦をしていた。1984年(昭和39)日



本初のモルトワイン多クブレンドしたワイン、ハイイカを720mm500円発売。トリスは各段優れ、値段も手頃で私も愛飲し、トリス商品になった。間を置かず、「サントリー」は同価格の「サントリー」を発売。1986年(昭和31)「ブラックマツカ」に対し「サントリー」は「トリス」を発売した。当時は幾つかのワインキネカが有ったが今はほぼ満ちた。上位「サントリー」ツカの間社が圧倒的なシェアを占めている。近年は酒類の好みが多様化、日本酒、焼酎も愛飲家が増加。洋酒は少し押され気味、その「マッサン」でのツカの間社、王者「サントリー」も反戦に出る。あの洋酒「トリス」の先

### 第3日曜日開催日1月18日(定例:朝9時~)

### 第120回: 朝粥食べておしゃべり会

ご講演 長谷川和之様: 報告者: 高木英智様

朝粥食べておしゃべり会  
 お題・食前のお話  
 恒例・食前のお話  
 お題・びわこ  
 花噴水について

本日の講師は酒会宗男さんのヨツトがかり、琵琶湖ヨツト倶楽部会長、長谷川和之さん、琵琶湖汽船や琵琶湖ホテルの社長、大津ロータリークラブの会長等を歴任、滋賀県振興に大活躍をされてきた方。

最初に「びわこ花噴水」の美しい映像、事業費約4億7千万円、まっすぐ上がる噴水はいくらでもあるが、これだけの規模で円弧を描く噴水は極めて珍しいとのこと。特に夜のライトアップは美しく、コンピュータ制御で放水されるさまはとても幻想的。

今日のお話はこの噴水ができた経緯と裏話、琵琶湖は近畿の水がめ、国の事業で琵琶湖の総合開発が始まり、大津港の改修もテーマに、防波堤に噴水を考えた。



行政を動かす事業は議会の承認が必要、それには関係者に理解を得る必要があった。

お話の中で、カリヨンが鳴る時計がわりの噴水利用案が却下されたのをはじめ、行政を動かすことの太さが伝わってきたが、ものごとを成すにはしかるべき人に情熱をもち、働きかけていけば周囲から不可能と言われることも実現していただけることをお聞かせいただきました。

京都洛中で酒蔵は一つ、その一つが上京区佐々木酒造さん。

### 鴨川を美しくする会の応援酒



【京都の地酒】  
 佐々木酒造  
 美しい鴨川 純米 一升瓶  
 1.81・2044円  
 720・mL 1049円  
 300mL・409円  
 佐々木酒造の現社長は、俳優の佐々木蔵之介さんの弟さんです。

### どんつき



テレビで 偶々この画面を観て驚いた。日の丸は兎も角としてこの時節にもう一つの旗は駄目だと思っ

「民に責任押しつける。宗海」が掲載された。拍手と座布団が商売人だから得意先の開拓に行くことも有るが、先方の仕入先が知人であったら、絶対に「こちらから手を出さない。小商人でも、これは常識の話。国となれば大勢の命に関わる。今回の事件もチヨとした配りで避けられたかも知れない。なされた本人は悪気があつたとは思われないが、周りの人もたらしがない良い大学を出て、俸給も沢山貰っているのと思つ。泥棒とは言わないが。昔と違って今は間接的でも国民一人一人が議員を選べる権利がある。とすれば、最終的には自己責任は自分がとることになる。投票率の低さは無責任の極み。キケンな危険に等しい。」

サントリーの会社の門前で、ツカの子ラシを撒くに近いようなこと。商道徳としても絶対してはならないことだ。私もチラシを配るが、お酒屋さんの近所は入れない。折り込みは除く。私と同じように感じた人も多く、フエツツクの時事都々逸に事故に己が付けた火。素知らぬ顔で「民に責任押しつける。宗海」が掲載された。拍手と座布団が商売人だから得意先の開拓に行くことも有るが、先方の仕入先が知人であったら、絶対に「こちらから手を出さない。小商人でも、これは常識の話。国となれば大勢の命に関わる。今回の事件もチヨとした配りで避けられたかも知れない。なされた本人は悪気があつたとは思われないが、周りの人もたらしがない良い大学を出て、俸給も沢山貰っているのと思つ。泥棒とは言わないが。昔と違って今は間接的でも国民一人一人が議員を選べる権利がある。とすれば、最終的には自己責任は自分がとることになる。投票率の低さは無責任の極み。キケンな危険に等しい。」

# ヨシちゃん ひとりごと



## 他所さんの

### 便所

私は小学校一年迄、祖母に育てられていた。大変厳しい人で、「左利き、だした私がお箸を左で持つと、火箸、手の甲を叩かれた。チヨッ、吃音で癖でドムルと頬を捻られた。そのお陰で右利き、発音も普通に発せられる様になった。小学生になり、祖母に友人宅に遊びに行くと、「必すお便所行ってからお行きと言った。?と不思議そうに顔で祖母をみると「他所さんの便所をお借りしたらいさま心(タメ)と言った。』



「大と小」に別れた溜め置き式だった。当時は「水洗便所」などは殆どなく、た。(学校も)溜まった大小は山科のお百姓さんが肥料に使つた。今更サイク

昭和4年(1929)肥土の写真 参照:京都新聞 昔はウン「も肥料として再利用していたのだ。また、便所もトイレ張り無く多くは板張り。汚せば大変「迷惑をお掛けする。溜まったものが上から見える状態。謂わば「その家の生活状態が丸見えになると、氣を使つて他所さん・の言葉になつたのだと思つた。三つ子の時代からの言葉が「耳タコ

で、私は今も外でトイレを使わないで、心掛けています。さて私の店はこの地でお酒を主体に業態を代えながら商売を続け、百一年の間、最近まで「来店客用トイレは1ヶ所。トイレ建替え(1)でも。今は「来店用は1ヶ階で5ヶ所。それが、先の二十三間堂「通し矢の田」は待ちが出来るほど使用された。祖母が居たら「お行儀の悪い人が増えたと目を回すだろう。それだけ無くトイレ下の補充用、パイプの中を掃除する人(奴「泥棒)もいた。それで紙アラウヤンゲ!とヤクザ風のアンちゃんに怒鳴られたりする。(アホカサ!)

## 稲荷山

### ぶらり散策記

#### 越智薫史

外へ出る時は、バカチと紙を持つたか!。と懸けられた私はウンや、おシモ目「管理できない情けない日本人が増えて悲しい気分になる。水道代の請求書は夕が来ていないが、恐らく次の水道料金が高額になるのだ。この「ホントにメンツ、

稲荷の神さんが稲荷山の三ヶ峰に初めて鎮座されたのが和銅2年の初午の日という。これをしのんで2日前の辰の日に稲荷山の杉と椎の枝で作った「青山飾り」を本殿以下末社などに飾りこの日を迎える。初午詣は、福詣とも呼ばれ、

年齢を重ねることに寒さが身に堪える。この冬は特別に春が待ち遠しい。春と言えば初春の初午である。稲荷の神さんが稲荷山の三ヶ峰に初めて鎮座されたのが和銅2年の初午の日という。これをしのんで2日前の辰の日に稲荷山の杉と椎の枝で作った「青山飾り」を本殿以下末社などに飾りこの日を迎える。初午詣は、福詣とも呼ばれ、

## 潮もがなほぬ

### バオバブの花は

#### 実際に敬子



## 石動敬子

私事ながら、この句を10年間の365句目に据えた「第二句集」がこの度、生まれた。厳しい選を経て残った作品の60パーセントは捨て、これが今の私という1冊になった。どうにも捨てきれなかった少女の頃の羽織と、故郷のシルク和紙を組み合わせた民謡調の表紙に「ニューヨーク在住の孫のスケッチも小さく入った。印刷製本も今回は、句集専門の東京の出版社ではなく、京丹後の、句集はこれからという知人に依頼した。慣れないパソコンへの入力や細かい打ち合わせに思いの外、時間を要し、1年程かかる「難産」だったが無事生まれた。よかった。

前日の巳の日から、その昔から社頭参詣者で埋まり、京洛初春第一の祭事とされているという。神社にとっては創立記念日であり、1年でもっとも大切な行事なのである。私はさしてこの初午神事に興味はないが、この日が過ぎると京都にも春の兆しが深まり暖かくなるのでこの日が待ち遠しい。梅も咲き乱れ芳香を放つてくれる。八百屋の店頭には八タケナが並び、これを辛し和えていただく春の季節感がぐつと深まり嬉しくなる。それにしても今年の正月三ヶ日

公私共に想定外の展開で、追われるように春夏そして秋から冬へと転がりゆく日々のある日、句集の

テーマともいうべき最後の句がきまつたのだった。バオバブの木なら、あの「星の王子様」で、知られている。その花と出会えた夏だった。近くの府立植物園の観覧温室の8月。無料開放の8時半までその花を見に通う、夢のような日があった。のちに年賀状の画像にもなったマダガスカル原産の白く神秘的な、女王のような花は、咲き終えた途端、実を結び出す。薄緑のココナツ型のそれも、なかなか美味いのだとか。花が終わってからも植物園通いは今も続いている。この春入学する孫を乳母車や自転車にのせて通ったのが植物園や賀茂川だった。「ボランティアアさんですか?」「近いうちファンクラブに入るとおっしゃいます」と今日も挨拶したが、先日、植物園の名譽園長さんの講演「難難辛苦の91年」をお聞きした。せめぎあいのご苦労の一端は、一昨年入園料が一部有

## 大変だった

は大変だった。我が家は元旦恒例のお節・お屠蘇をいただいた稲荷大社への初詣、冷たい北風を拂いで多くの参拝者にもぐりこんで、本殿への参拝だ。人の波はスムーズでぎゅうぎゅう詰めの息苦しさは味わうことはない。紅白のひもを揺すってガランガランと鳴らす鈴が撤去されているからだ。それでも賽銭箱はしっかりと口をあけています。参拝を済ませ四つ辻までお山を登り、尾根道を東福寺方面に下った。

南下して深草大門町の我が家に帰った途端である。午後1時半頃だったか、雪が舞い始めた。この雪は夜半まで降り続き、一気に京都市内は銀世界。15cm以上も積もった。おかげで2人の孫君は大はしゃぎであった。さらに2日夜も大雪になり、20cm以上も積もった。

年頭からのあいさつも、「おめでとございませう。大変な雪でびっくりしましたなあ」から始まった。そんな訳で、稲荷大社の初詣の喧騒が過ぎ、参道に初午のノボリが林立すると、私はこの日を待ち焦がれている。



# 京都&東山 ぶらりピカリ

58

## 空豆地蔵

この欄「通り」  
を連載の連載中でしたが、今回は  
節分なので「お地蔵」さんにしま  
した。

節分とは字の通り季節の変わり  
目の「立春、立夏、立秋、立冬」  
の前口のことを言います。特に春  
を迎えるということは新年を迎え  
るにも等しく大切な節目だったの  
で、室町時代あたりから節分とい  
えば立春前だけをさすようになった  
たそうです。豆まきに用いられ  
るのは大豆の炒り豆。これは、生  
の豆を使って拾い忘れて芽が出て  
しまつと縁起が悪いとされている  
のと、「魔目」豆を「炒る」射  
る」と語呂合わせからたまたます  
さて、各地には色々な名前前の  
「お地蔵さん」があります。空  
豆を冠したのは日本に一つだけ。  
それが我が「集西薬・サカタ」  
の向かのお風呂屋さん(公衆浴場)  
「大黒湯」の入り口(暖簾のうしろ)  
にあるのです。



昔、ある時  
親子の猿がど  
こからともな  
くお地蔵さん  
の所に来て、  
母猿が子猿の

頬を撫でて、次にお地蔵さんの頬  
を撫でるといった事を何度か繰り  
返していたそうです。  
数日が経ったある日、また親子の  
猿が来て、今度は母猿がお地蔵さ  
んに拾粒の空豆をお供えし、うち  
の一粒を子猿に食べさせた。その  
様子を見て地元の人たちは、親子  
で「歯痛平癒で来ていたんだ!」  
そして治ったので、親子の猿がお  
地蔵さんの所にお礼に来たのだ  
と感したよつです。

私の幼児時代は「家風呂」がな  
くお風呂は、祖母に連れられて  
「大黒湯」へ。行き帰りに「お前  
はよく歯痛になるから」と言つて  
必ず「お地蔵さん」に両手を合わ  
せお参りをさせました。節分には  
豆とお賽銭をお供えしました。  
そのお陰でしょうか、80歳を越え  
た今も「カチ割り氷」を自分の歯  
で碎けます。モットも毎朝夕、歯  
磨き、後は「歯専用ブラシ」で歯  
茎をブラッ  
シングして  
います。



写(真名)は祖  
母と姉弟。  
幼児の頃、  
大黒湯で、いつも「タマタマ」は  
自分で洗った後、祖母に背中を洗  
つて貰いました。私も、おばあちゃ  
んの大きな背巾を流しました。  
もう70年昔のことですが、背中  
の感触は今も覚えています。  
おばあちゃんオオキ。そして歯  
でお悩みなら「空豆地蔵と大黒湯」  
お帰りは「集西薬サカタ」へ!。

大黒湯で、いつも「タマタマ」は  
自分で洗った後、祖母に背中を洗  
つて貰いました。私も、おばあちゃ  
んの大きな背巾を流しました。  
もう70年昔のことですが、背中  
の感触は今も覚えています。  
おばあちゃんオオキ。そして歯  
でお悩みなら「空豆地蔵と大黒湯」  
お帰りは「集西薬サカタ」へ!。

# 市電が走った 京都を巡る

福田静二



烏丸丸  
太町を出  
た丸太町  
線は、西へと向かいます。  
丸太町通の両側には、商店や会社  
が続きます。当時は小さな赤提灯  
も何軒かあって、幼なじみの友人  
と意気投合して突然、飲みに行つ  
たのも市電時代の思い出です。  
そんななか、目立つ色彩の政党  
の京都支部ビルもありました。  
そんなことを思いながら「府庁  
前」に到着します。交差する南北  
の通りは釜座通です。南へは細い  
道ですが、北へはケヤキ並木が続  
く広い道になっています。その正  
面に、堂々とした姿を見せている  
のが京都府庁旧本館です。停留場  
名は「前」ですが、実際は三〇〇  
メートルはあるでしょう。通りか



府庁前の市電

ら奥まったところにあるのも、威  
厳を演出するには、絶好の口ケ  
ションとも言えます。  
周辺も含めた京都府庁の敷地は、  
文久二年(一八六二)、会津藩主  
であり、京都守護職として着任し  
た松平容保の守護職屋敷がありま  
した。明治維新で屋敷は接収され、  
軍務官屋敷となります。そして明  
治二十八年に、二条城にあった京  
都府庁が移転して来ます。  
府庁旧本館は明治三十七年にで  
きました。昭和四十六年まで京都  
府庁の本館として使われており、  
いまも会議室など現役として使わ  
れています。創建時の姿をとどめ  
る現役の官公庁建物としては日本  
最古のものです。ルネサンス様式  
の外観で、平成十六年に国の重要  
文化財にも指定されました。

日本館中庭には、円山公園の枝  
垂れ桜の孫に当たる枝垂れ桜を始  
めたか、訝しく思われるかもし  
め、六本の桜があります。その桜  
のひとつが、大島桜と山桜の特徴  
を持つ珍しい品種であることが判  
明しました。守護職屋敷があつた  
ことから、松平容保の名を取つて  
「容保桜」(かたもりざくら)と  
命名されました。最近では満開時  
に府庁旧本館とともに公開され  
参観者で賑わいを見せます。  
ところで、この府庁前の停留  
場は、丸太町線の開通に伴い、  
明治四十五年に設けられました  
が、それ以前から、もうひとつ  
府庁前を名乗っていた別の停留  
場がありました。府庁旧本館の  
前の東西の通りは下立売通ですが、  
ここに大正十五年まで、京都電鉄



丸太町通の街並みを見て、府庁前に到着

中下立売線の路面電車が走つており、  
真ん前に京都電鉄の「府庁前」が  
設けられました。十数年の間です  
が、同じ名前の停留場が、会社が  
違つとは見え、近くに存在してい  
たことになりました。

# 酒屋で生きて 生かされて



## 第九十九話

お母さんが出来た 幼い頃、私達は、友達等はお父さん母さんがいるのにおばあちゃんしかいない何んてかなあ？と思っていた。小2年の2月、祖母が仏壇の前で私に「長く入院していたお前のお母さんが戻ってくる、戻ってきやはたらお母さんとお呼びや」と言った。ワッ！お母さんが居た！と飛び上る程嬉しかった。「ホナお父さん？」は聞くと番頭さんだと思っていた「メンメさん」だと教えられた。



マチとヨシちゃん

縁側で「ヨシちゃんか？お母さんや！」お母さんは私を引き寄せ「淋しい目をさせて悪かったなあ」と声を掛けてくれた。ワ！と抱き付いた。おばあちゃんとは違っていて匂いがした。数日後(結婚して)七条の家で一緒に暮らした。翌年春、父は心算された。写真はその時のもの。母のお腹の中には妹がいた。敗戦前病気で兵役免除さ軍事物資調達会社の役員をしていた。当時は東西二軒の家。西側は、父と母が主の「酒食料品販売」東側は、戦時中は写真にも写っている「番頭さん夫婦」に任せられた国民酒場だったが、彼が戦死し、祖母



昭17年父一郎お母

が引き継いで営業していた。何しろ「酒の少ない時代」配給割り当ての酒を売るので、行列が出た。酒の「つまみ」摘みは、お客さんが集めて提供してくださるもので間に合わせた。その酒場も昭20年には配給も途切れ休業していた。西側は、母が主で「酒食料品販売」と言っても「塩」以外のものは配給ですら途切れ、お箸や蝋燭などを売ったりしていた。

## 園の管理人 月三天



一面を覆う地表の霜が、光に身を伸ばしながら溶けてゆく。昔は緑豊かでも、ここの寒くては、もはや面影もない。私は帝都維持管理局から遣わされた園(ソノ)の管理者をしている。しかし、この役目もそろそろ終いだらう。だって、一面霜でその下は茶色の土なのだ。

伝達受けに入っている手紙を取り出すと、維持管理局からの定期通知書が同封されているものと、動植物研究所からの研究督促状だった。今回こそ書かないとなあ。封を切らないままティーテーブルに置き、私は園へ踏み出し

元気な人だった祖父は重需工場に勤め、5月ごろから炭鉱に動員され、今にして思うと従事中の塵肺で身体を痛め、日本の敗戦を悲しみながら9月1日祖父喜一郎58歳で亡くなった。そのころ妹は2歳、おぼつかない手で祖父の遺体に「暑いやろ」と団扇で風を送っていた。当時の相続法で父が全部相続をした。母も私を優しく可愛がって呉れた。時々近所の人に「お母さんはあんたを大事にしてくれはる？」と聞かれたり、友達から「お前のお母さんは若いなあ」と言われるので不思議な感じは持っていた。後に判るのであるが、私には実年

た。何も無いのだが、昔はこの辺りにリンゴの木があった。あそこにはミカン、向こうにブドウ、あつちにはイチジク、そこに角何でも果物が生っていた。花だって、ジャスミン、セイジ、マリーゴールド、バラ、ユリ、ポピー、クロッカス、アマリリスと、数え切れない花々が咲き誇り、虫も動物も駆け回り飛び回っていたのだ。それが、この園なぜこつなつたのか？日の温かさを遮って、冷たい空気が私を刺した。あの、心地よく吹き抜けていく者達は、も

年齢に九歳加えて教えていたのだ。今と違い「性教育」の無い時代に子供は神さんがお母さんの「お腹」に運んでくるものと信じていた。只、友人の家に遊びに行つて「親子の会話」を聞いて受ける感じと私と母との会話の雰囲気の違いは感じていたが・・・

子供のころから「読書が大好き」で「貸本屋(戦後多くあった)」で借りた「家なき子」や「母をたずねて三千里」などを読むと何故か涙が溢れ出た。小林多喜二や徳永直のプロレタリア作家の本や社会科学も学んだ。蜷川・高山の民統選挙。中国内戦で中共軍が揚子江を渡り南下大作戦の時代だった。

う来ないのだろうか？空から降る水の玉は、どこへ行つてしまったのだろうか？虫は死に動物は逃げ、皆いなくなつてしまった。

まだ残る霜を蹴飛ばす。破片がどこまでも高く舞い上がつてゆく。いっそ、霜でも育てて研究しようか？

ん？

耳を疑う響きが私に向けられている。

破片が落ちた所からだ。よくよく見ると、霜を押しつけて小さな緑が頭をさすつていて。

「ごめんね、君の名前は？」

聞きながらよそ見をすると、そこら中に、新しく名を持つ者達が一生懸命霜をどけようとしている。ずっと見逃していてごめんね。

維持管理局御中  
動植物研究所御中

## 編集後記



これは友人の鉄道写真家「き高橋宏さん」から戴いたもの。京都市電河原町七条下から塩小路方向を写した写真。京都弁で突き当りを「ドンギ」と言います。そのままを「屋号」のままを「屋号」の靴屋さん。その右に柳原銀行(現在移転保存)が見えています。似た言葉で「どん詰まり」が有りますがこれは左右に行くことが出来ない状態を指し、どん詰まりは少し余裕があるのです。

「とんからりん」発行時、天声人語(朝日余録(毎日)潮流(赤旗)を真似た「欄」をつくり、この写真を思い出し「とん詰りにカタカナはキツイ」と「かなで」ワラトも内容は「天地」ほど差はありますが、本音とは少し控え目ですが書いています。残念ながら間もなく81歳、チヨイ呆けて一度書き再々、お許し。高校時代、新聞部に入りたかったが、頭脳力ではねられ、大学も授業料が払えず中退。只商売以外にも、色々な貴重？な経験をしました。それが今役に立っています。

子供、小年時代は超人扱いで、ホントウもですが、祖母は友人との約束を優先し「お使いを拒む私を「頑固な子」と言っていました。

もつ、時効になったこともありボチボチ書つかかつかかなあ、と思つています。